



ふるさとの**自然**

22

花の蜜を求めてやって来るメジロ

冬になると姿を見る機会が多くなるメジロ。愛らしい姿が人気です。

○小さくてかわいらしい鳥

メジロはスズメより二回りほど小さな鳥で、その名前のおり目のまわりに白い輪があって目立ちます。頭から背中にかけては「うぐいす餅」のようなきれいな緑色で、尾は短く、かわいらしい体つきです。普段はかん高い声で「ティー、ティー」と鳴き、さえずりは早口で「チョーベー、チューベー、チョーチューベー」と繰り返します。気を付けていると、市内でも聞くことができます。

○甘い物が大好き

メジロは全国的に広く住んでいて、特に暖かい地方の林に多く見られます。餌は小さな虫やクモ、花の蜜などです。甘い蜜は特に好物で、冬にはツバキやサザンカの蜜を求めてやって来ます。花粉で顔を黄色く染めていることがあり、樹木にとっては花粉の大切な運び屋となっています。巣は、クモの糸を使ってワラやひもを低い枝にからませ、ハンモックのようにつるします。

○おしくら^{まんじゅう}饅頭

メジロには同じ枝に何羽もが体を寄せ合い、まるでおしくら饅頭のように止まる習性があります。この様子から「めじろ押し」という言葉が生まれました。

○庭にも姿を見せる

冬は餌の虫も姿を消し、野山の花も少なくなって、メジロにとっては厳しい季節です。この時期は、花の蜜を求めて、町中の公園や人家の庭にもよく姿を見せます。特にミカンが好物で、半分に切って枝に刺しておくと、すぐに見つけてやって来ます。パンくずなどをまいておくと、スズメやキジバト、ヒヨドリなどもやって来ます。この冬試してみてくださいはどうか。(齊藤敏一)